

校 園 別 研 究 目 標

「校園別研究目標」は、校種別に各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動などの課題を示したものである。

学習指導に当たっては、幼児・児童・生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々の状況に応じた指導・支援を行うために、学習活動、学習形態、評価方法及び教材・教具などを工夫することや、幼児・児童・生徒一人一人が意欲をもって自ら考え、判断し、表現できるような指導方法・指導体制の工夫改善を図り、学び方を身に付け、学ぶ楽しさを実感できる授業の展開に努めることが重要である。

また、小中一貫した教育をはじめとする校種間連携を一層推進するため、全ての教科・領域において、校種間の円滑な接続を図るための研究に努めることが大切である。

なお、新しい教育要領、学習指導要領が平成 30 年度より各校種で順次完全実施されていることに伴い、各校園において適切に教育課程が編成され、実施されるよう研究に取り組むことが大切である。

◇ 高等学校

(1) 国 語

ア 新学習指導要領の構造及び内容をふまえ、国語科の各領域における（改訂された授業時数での）言語活動を通して、自己肯定感を高め、他者とともに生き、課題を解決していくための国語の能力を確実に身に付けることができる指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るとともに、進路等を考慮し、生徒の実態及び学習内容の習熟の程度等に応じた指導方法について研究する。

ウ 伝統的な言語文化に対する理解・関心を深めるとともに、国語を尊重し、その知識・技能を積極的に活用する態度を育てるための指導方法について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導と評価の一体化を進めるとともに、「何ができるようになるか」という観点で評価するための場面や方法について研究する。

(2) 地 理 歴 史

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るとともに、学びに向かう力、人間性等を涵養するために、義務教育段階での社会科における学習内容との連続性や公民科との関連性に配慮しながら、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする態度を育てるための指導方法について研究する。

イ グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法について研究する。

ウ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒の発達段階や地理、世界史、日本史の専門性・系統性・関連性に留意しながら、地図、年表等のさまざまな資料や I C T を活用した指導方法について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、学習内容の考察についての論理的な説明、立場や根拠を明確にした議論などに対する評価方法について研究する。また、指導と評価の一体化をさらに進め、目標に準拠した学習評価のあり方について研究する。

(3) 公民

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図り、学びに向かう力、人間性等を涵養するために、義務教育段階での社会科における学習内容との連続性や地理歴史科との関連性に配慮しながら、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする態度を育てるための指導方法について研究する。

イ グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法について研究する。

ウ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、中学校社会科の学習をふまえ、習得した知識や概念などを用いて、各科目の特質に応じた諸課題について多面的・多角的に探究させるための指導方法について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、学習内容の考察についての論理的な説明、立場や根拠を明確にした議論などに対する評価方法について研究する。また、指導と評価の一体化をさらに進め、目標に準拠した学習評価のあり方について研究する。

(4) 数学

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、数学的活動を通して数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めるとともに、事象を数学的に考察し、表現・処理する能力を高めることができる指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、さらに問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うための指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「知識・理解」を柱とした観点別学習評価の推進を図るとともに、新学習指導要領の観点をふまえ、指導と評価の一体化について研究する。

(5) 理科

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、自然の事物・現象に関わり理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、科学を学ぶ意義や有用性を実感させるとともに、生徒の興味・関心や進路等の多様性をふまえた指導方法やICT機器を活用した指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、義務教育段階との接続に配慮し、科学の基本的な見方や概念を柱として内容を構成するとともに、目標に準拠した評価のあり方や指導と評価の一体化について研究する。

(6) 保健体育

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、発達の段階において運動の特性や魅力に応じ、合理的・計画的に運動が実践できるよう指導のあり方について研究する。また、健康・安全の課題に直面した場合に、的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い、行動の選択ができる指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒一人ひとりのこれまでの学習をふまえ、単に知識や技能を身に付けるだけでなく、知識と技能を関連させて学習できる指導のあり方について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導と評価を一体化させた効果的・効率的な学習評価を推進するとともに、評価規準の作成や評価方法等について研究する。

(7) 芸術

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、各科目における見方、考え方を働かせ、表現と鑑賞に必要な資質・能力を相互に関連させた学習活動を充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導計画及び指導内容の工夫・改善について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を明確にし、生徒が興味・関心や個性を生かして主体的に取り組むことができる教材及び指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、単に知識や技能的な面だけではなく、芸術に関する各科目の特質について理解させ、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりする態度を総合的に評価する学習評価のあり方について研究する。

(8) 外国語

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、学びに向かう力、人間性を養う指導内容や指導方法及び主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、中学校における指導をふまえ、生徒の実態及び習熟の程度に応じた指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導方法の改善と工夫を図るとともに、「CAN-DO」リストの形での学習到達目標設定や評価規準の作成、評価方法の工夫について研究する。

エ 生徒のコミュニケーション活動を一層充実するために、「聞くこと」「読むこと[やりとり]」「話すこと[発表]」「書くこと」を通じて5つの領域を総合的に育成する指導方法や、「英語で行うことを基本とする」授業のあり方について研究する。

(9) 家庭

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、家庭や地域及び社会における生活の中から見いだした課題に取り組むことで、生涯を見通して生活の課題を解決する力を身に付けさせるための指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学習課題の解決に必要な技能の習得状況を把握するとともに、家庭生活や地域の生活と関連付けた生活上の課題を解決する能力や生活を科学的に探究する方法を身に付けさせるための指導計画及び教材・教具の開発、指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、生徒の実態に応じた指導計画や題材設定を工夫し、評価に関する規準や計画等、評価のあり方について研究する。

(10) 情報

ア 主体的・対話的で深い学びの実現及び思考力、判断力、表現力の育成を図るために、中学校における情報教育の学習内容との接続に配慮しながら実習を積極的に取り入れるとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ実践的・主体的に活用できるような指導計画の作成、教材や実習課題等の開発について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、情報科における学習が他の教科・科目等の学習に役立つよう連携を図るとともに、生徒の実態を的確に把握し、生徒一人ひとりに応じた主体的な学習意欲を高めるための指導方法について研究する。

ウ 生徒が学習の意義や価値を実感できるよう、生徒の日々の達成状況を積極的に評価するとともに、情報技術の活用による問題の発見・解決を目的とする学習活動を通して、情報と情報技術の適切かつ効果的な活用の観点から学習過程や成果の評価について研究する。

(11) 工業

ア 基礎的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して創造的に探究するための資質・能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法について研究する。

イ 生徒の意識の変化や進路の多様化をふまえ、ものづくりを通して自ら考え、課題を解決する実践的な態度を育成するために、個に応じた学習のあり方や主体的に学習する意欲を高めるための指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習達成状況を的確に評価するために、工業の各分野における基礎的・基本的な知識及び技能の習得について、生徒の学習過程や到達の程度を把握するとともに、ものづくりを通して身に付けた知識・技能を活用できるよう、指導方法や評価方法について研究する。

エ 工業高校における安全教育を進めるため、安全についての理解と認識を深めるとともに、実験・実習における事故防止に向けた指導を徹底し、職業人に求められる倫理観を育むための指導方法について研究する。

(12) 商業

ア 商業の各分野に関する基礎的・基本的な学習を実践的・体験的な学習に活かすとともに、各科目間の連携を図ることで、ビジネスに関する課題を発見し解決する力を身に付け、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導を行うために、生徒の意識の変化や進路の多様化をふまえ、生徒一人ひとりが社会で求められる資質・能力を育むとともに、生涯にわたって探究を深める力を身に付けることができるよう、生徒の主体的な学習意欲を高めるための指導方法やICTを活用した指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、商業の各分野において身に付ける「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づく評価のあり方について研究する。

(13) 福祉

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、福祉の見方・考え方を働かせ、地域や福祉施設、産業界等との連携・交流等の実践的・体験的な学習活動を通じて、持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力の基礎を育成するとともに、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、福祉を学ぶ意義や有用性を実感させ、地域福祉への関心を高めるとともに、科学的根拠に基づいて創造的に課題解決できる能力を育てる指導方法について研究する。また、ニーズの高度化と多様化に対応した人材育成に向け、ICT機器や介護ロボットを効果的に活用した指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、福祉の基本的な見方や概念を柱として内容を構成するとともに、目標に準拠した評価のあり方や指導と評価の一体化について研究する。

(14) 総合的な探究の時間

ア 自己のあり方生き方について考えることを通して主体的に課題を発見し解決していくための資質・能力を育成するとともに、探究の過程において課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究の意義や価値を理解し、創意工夫を生かした学習活動に取り組

むための指導方法について研究する。

イ 生徒の学習意欲をより高め、探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養うため、自然体験や就業体験、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動について研究する。

(15) 特別活動

ア 年間 35 単位時間以上のホームルーム活動を通して社会参画や自己実現など将来について主体的に取り組むことで、よりよい人間関係を形成するとともに、生徒同士の相互理解、教師と生徒の信頼関係の構築を図ることのできる指導計画・指導方法について研究する。

イ 生徒会活動を通じて異年齢の生徒同士で協力し諸問題の解決に向け自主的に取り組むことで、学校生活の充実と向上を図るため、それぞれの活動の意義を理解し主体的に実践できるような指導方法について研究する。

ウ 学校行事を通じて全校もしくは学年等の集団で協力することで、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養うため、それぞれの学校行事の意義を理解し主体的に実践できるような指導方法について研究する。

(16) 特別支援教育

ア 障がいのある生徒の自立や社会参加を促進するために、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、生徒に応じたキャリア教育の充実に向けて研究する。

イ 障がいのある生徒の実態を的確に把握し、「合理的配慮」への観点を踏まえた支援を充実するために、校内での支援体制の整備や特別支援学校のセンター的機能の活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。

(17) 生活指導

ア 生徒との信頼関係を深め、生徒指導を充実し、全校的な指導体制を機能化するために、中学校・高等学校の連携をより深めるとともに、情報交換を密にして、生徒の実態の把握に努め、全校的な共通理解を得るための方法について研究する。

イ 自主と自律の精神を向上させ、学校生活に充実感を抱かせるために、自己のあり方生き方について考え、自発的・積極的に自己を表現しようとする意欲を向上させるよう、集団育成や個別指導のあり方について研究する。

ウ 人間尊重を基盤とした共同生活において望ましい能力と態度を養うために、民主的な社会の形成者としての自覚と責任感の向上が図れるよう、教育活動全体を通してあらゆる場で指導する方法のあり方について研究する。とりわけ、人間尊重の教育を一層推進する観点から、「いじめ」「中途退学」「長期欠席」など、生活指導上の諸課題についての効果的な指導のあり方について研究する。

エ 生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、好ましい人間関係の育成に向け、教育活動

全体を通して、共に育ち共に学びあう交流を進めるための必要な配慮や効果的な場について研究する。

(18) 学校図書館教育

ア 生徒が学校図書館を利用し、その機能を活用する能力を育成するために、生徒の実態等に
応じた各教科・科目の目標の設定とその達成に向けた計画的な指導方法について研究する。

イ 学校図書館の利用をとおして、生涯を通じて読書に親しむ姿勢を養うため、整備すべき
資料の精選及び生徒の日常生活における読書活動・言語活動を充実させるための指導方法
について研究する。

(19) 視聴覚教育

学習の効果を高めるために、視聴覚教材及びそれに関連する教育機器について理解を深
め、各教科・科目の教材開発に努めるとともに、より効果的な活用方法について研究する。

(20) 進路指導

ア 生徒が自己の生き方を考えた主体的な進路選択を行うために、生徒一人ひとりの社会
的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育
を推進するとともに、ホームルームなどを基盤とした進路指導のあり方について研究する。

イ 進路指導の校内体制を確立するために、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育を実
践し、全ての教職員が、キャリア教育の意義や必要性について共通理解を深めるとともに、
組織的・継続的な進路指導体制のあり方やガイダンス機能の充実について研究する。

ウ 学校・家庭・地域や産業界及び関係諸機関との連携を強化するために、大学をはじめとす
る高等教育機関、各種研究会、家庭・地域や産業界及び公共職業安定所等との連携の方法・
内容などについて研究する。

(21) 定時制教育

ア 定時制高等学校の生徒の実態に即した教育の内容と方法を確立するために、就業形態や
学習歴などが多様化している実態を把握するとともに、生徒の適性、興味・関心、進路希
望等に応じて、一人ひとりの能力や個性を伸ばすことができるよう、学習指導のあり方
について研究する。

イ 定時制高等学校の生徒の実態に即した生活指導を進めるために、基本的な生活習慣や規
範意識の定着、勤労観・職業観やコミュニケーション能力の育成など、社会の一員として
の自覚や自主的・自律的な態度を身に付けさせるための生活指導のあり方について研究す
る。